

2016 年度南ユタ大学短期プログラム報告書

函館校 地域協働専攻国際協働グループ 3 年 大谷芽生

私たちは札幌校、岩見沢校、函館校の学生計 16 名で 3 週間南ユタ大学に行ってきました。とても短い期間ではありましたが、とても充実した生活を送ることができました。私が本プログラムに参加したきっかけとしては、やはり自らの英語力を向上させたかったからです。短期間ではありますが、ホームステイということもあり、学校にいなくても英語に囲まれた濃い生活を送れるだろうと考えました。また、本プログラムの目的にもあるように、実際にアメリカへ行き、アメリカの家族と共に生活することで文化の違いも学べると思い、参加を決意しました。

私たちは 2016 年 8 月 31 日に日本を出発し、9 月 1 日ラスベガスのマッカラン空港に到着しました。南ユタ大学のあるシーダーシティに着いたのは夜の 11 時と遅くなってしまいましたが、私たちを受け入れてくれるホストファミリーの方々が待っていてくれました。その日は時間が遅かったため、家で寝るだけとなりました。

次の日は全員学校に集合し、校内を案内してもらいました。総合大学ということもあり、キャンパスはとても広く、きれいでした。学校のいたるところに机や椅子があり、学生たちがそこで勉強しているのを見て、これだけ勉強するスペースがあれば勉強したくなるなと感じました。また、整っているのは勉強の設備だけではありません。体育館に行けば、トレーニングジム、プール、スカッシュコート、ボルダリングなどがあり、様々なスポーツを楽しむことができました。私たちは時間があるとそこへ行き、みんなでスポーツをしました。

アメリカへ来て初めての週末は、韓国と中国の留学生たちと共にユタ州の有名な国立公園であるブライスキャニオンへ行ってきました。そこは想像を絶する美しい景色でした。私はひたすら写真を撮り、ひたすら「すごい！」と言っていました。そんなすごい場所にも、このプログラムに参加しなければ行くことはなかったと思います。



ブライスキャニオン



韓国・中国の留学生たちと

プログラムが始まると、ジョージア先生という女性の先生が私たちの授業を行ってくれました。クラスはこのプログラムのために用意されたものであったので、日本人だけでした。授業の主な内容と

しては、先生が提示したテーマに関するプレゼン発表、ディスカッション、リーディング・ライティング練習でした。プレゼンは合計で3回行いました。テーマは、「日本文化紹介」「北海道の国立公園とユタ州の国立公園の比較」「生計」の3つでした。ディスカッションは主に先生から配布された資料を読み、その内容についての意見交換を行いました。

朝9時～12時までは上記のような授業を行っていましたが、午後は毎回、このプログラムの担当であるジョニー先生からトピックが送られてきて、それに関するレポートを書き、先生に提出していました。その後、1～2時間程の自由時間があり、その間学校を探検したり、体育館でスポーツをしたりしていました。5時からは韓国人留学生と先生から送られてきたトピックについてのディスカッションを行いました。韓国人留学生を中心に、和気藹々とディスカッションをしていました。初めは積極的に意見を出す人は少なかったですが、日が経つにつれてみんな慣れ、自分から話そうとする人が増えたように感じました。私にとってこの時間が一番英語を学んでいる気がしました。



小学校で日本文化紹介



ディスカッションの様子



体育館でバスケット

授業以外では、マラソン大会の準備・片付け手伝ったり、おもちゃの工場に行っておもちゃ作りを手伝うなどのボランティアを行ない、休みの日は友達とシーダーシティを散策し、お土産を買ったり、ご飯を食べたりもしました。また、ホストファミリーとの時間を過ごすこともありました。

私は函館校のもう一人の学生と同じ場所にホームステイしました。私のホームステイ先には18歳の女の子、16歳の男の子、12歳の男の子、4歳の女の子と4人の子供がおり、さらに韓国人留学生が1人いました。家族みんな明るくおもしろい性格の方々に、家は常に笑顔であふれていました。学校から家に帰ると、12歳と4歳の子が私たちに遊ぼうと言ってきて、庭で遊んだりしていました。休みの日には桃をむき、ジャム作りの手伝いや、料理の手伝いをするなどして過ごしました。



マラソンのボランティア



おもちゃ工場のボランティア



桃むきのお手伝い

私たちが帰る前の最後の週には、午前中の授業を担当してくださっていたジョージア先生の計らいにより、近くの山へのハイキング、ハロウィンパーティーなどを企画してくださいました。アメリカの

私は本プログラムでとても良い経験をする事ができました。英語の上達は著しいとは言えませんが…それでも英語を話さなければならない状況におかれることで、どうにかして伝えようとする、理解しようとする力はついたと思います。また、アメリカでの生活は、どこにいても新鮮なことばかりでとても楽しかったです。たくさんのことを学んできた3週間でしたが、私が何よりも良かったと思ったことは、たくさんの人に出会えたことです。プログラムに参加したことで、他分校に友達ができました。アメリカに家族ができました。友達ができました。これをきっかけに、もっと彼らと話したい、また会いたいと思い、英語に対するモチベーションにも繋がりました。また、異文化を学ぶことで自分の幅が広がったように感じます。英語を全然話せない私でしたが、みなさんの優しさに支えられながら素敵な時間を過ごすことができました。この経験を忘れることなく、これからも色々なことに挑戦していきたいです。



ホストファミリーとトランポリン



ハイキング



ハロウィンパーティー



学校のイベントに参加



ルームメイト



修了証授与